

平成30年度 第2回学校評議員会 会議録

- 1 日時 平成31年2月19日(火) 15:00～16:30
- 2 場所 水沢高等学校 大会議室
- 3 出席者

○学校評議員

高梨 拓 高橋 栄蔵 岩村 正明  
( 後藤 真子様、千葉 伸一郎様 は欠席 )

○教職員

校長 立花 起一 副校長 吉川 彰彦  
事務長 佐藤 理 教務主任 千葉 賢  
生徒指導主事 林 苗子 進路指導主事 安藤 智彩保  
保健厚生主任 谷木 悌典

4 次第

- (1) 開会 (2) 校長挨拶 (3) 平成30年度教育活動の報告
- (4) 協議 (5) 閉会

5 【評議員からの質問や意見】

- ・朝挨拶をしてくれる先生が多くなった。大変喜ばしい。外国人の先生も挨拶してくれる。地域行事に参加してくれる先生も増えたようだ。
- ・「学校評価アンケート」の結果を見ると、「非常に熱心に指導してくれる」という項目は以前から高い評価でこれは今年もかなり高い。しかし、「本校に入学して良かった」という満足度の評価が8割は超えているものの、5・6年前よりも少し満足度が下がっている。これについて何か思い当たることはあるか。  
→勉強と部活の両立に加えて、SSHの活動が理数科だけではなく普通科にも広まり、やることが多くて負担感があるのかも知れない。ただ、学習指導要領の新しい学びの形態は、全生徒が年間を通じて探究活動を行う方向になっていくので、本校のように全生徒が課題研究に積極的に取り組む教育課程は、将来につながる学びのスタイルである。生徒にその大切さを理解させながら取り組ませて行きたい。
- ・生徒自身が大切な活動であることを理解しないまま、様々な取り組みをすると負担感ばかりで満足度は下がってしまう。納得して取り組ませるような指導が必要である。私は総じて学校評価アンケートの結果を高く評価している。

- ・経済的なことで勉強のチャンスを逃してしまうような生徒はいないか。

→国の就学支援金制度により保護者の収入が基準以下であれば高校の授業料の実負担はない。一方、大学進学には大きな経済的負担がある。国の学生支援機構の奨学金の他に、水高には同窓会の育英会による奨学金制度があり、毎年2名ずつ奨学生として認定されている。また岩手医大には地域枠の入試があり、将来県の指定された病院で医師として一定の年数勤務する条件で奨学金の返還が免除される。本校では今年、一浪の生徒が合格した。

- ・岩手は医師不足の割合が全国でも最も低いと報道されていた。是非頑張ってもらいたい。

- ・関一付属中に奥州地区からかなり入学しているようだ。水沢になんとか止めることはできないか。

→電車で通えるということで奥州から一定数の生徒が行っていることは事実。付属中はそれなりの進学実績を出しており、行きたい生徒がいることは仕方がない。

ただ、水高は様々な地域の中学から集まった生徒が互いに刺激しあって、高校でさらに伸び、部活動と両立させながら進学実績を上げている。地元の水高で充分進路目標を達成できるということを地域の方々に理解してもらうように今後も頑張っていく。

- ・今年の水高の入試の倍率は1.1倍。地区内の他の高校は1倍を大きく切っている。今後高校がどうなるのか心配である。

→今後も加速度的に生徒数が減少する。現在、地区内の高校の統廃合等は未定だが、将来、県の再編計画が出されることになる。

- ・水沢病院の医師がやめるという報道がある。地域の医療が衰退するのは大変なことだ。地域の医療を支えるような人材を育成することで、小中学生は自分も水高に行こうという気持ちになるのではないか。それができるのが水高だ。医療衰退は住民が不安になり人口減少に拍車がかかりかねない。ぜひ頑張ってもらいたい。

- ・予備校もネットを利用すると聞く。全国どこでも必要な授業を受けられる時代である。高校でもそういった、ICTが活用できる環境が整うと良い。

→予備校のDVD講座は本校では二次試験対策に特別講座として利用。県の進学支援事業を活用している。岩手県では学校のインターネット回線を今後改善する計画がある。

- ・教師の一方通行の授業でないようなディベートとか生徒が話し合うような授業をしているか。

→主体的な学びがいろいろな授業で実践されている。教師が黒板に書き、一方的に進めるスタイルの授業はだいぶ少なくなっている。アクティブラーニングを多くの先生方が

積極的に取り入れている。今日の政経の研究授業でも、生徒の活動が多く見られた。

- ・外国籍の生徒がいても問題ないか。

→日本語ができれば問題ない。これからはそういう子ども達が増える可能性がある。

また日本語が上手でなくても、場合によっては英語でコミュニケーションを取ったりし、工夫次第でやっていける例もあると聞く。ILCができれば外国の方もかなりいらっしやる。

- ・昔から水高は幅広い生徒の集団だった。上も下も是非頑張ってもらいたい。